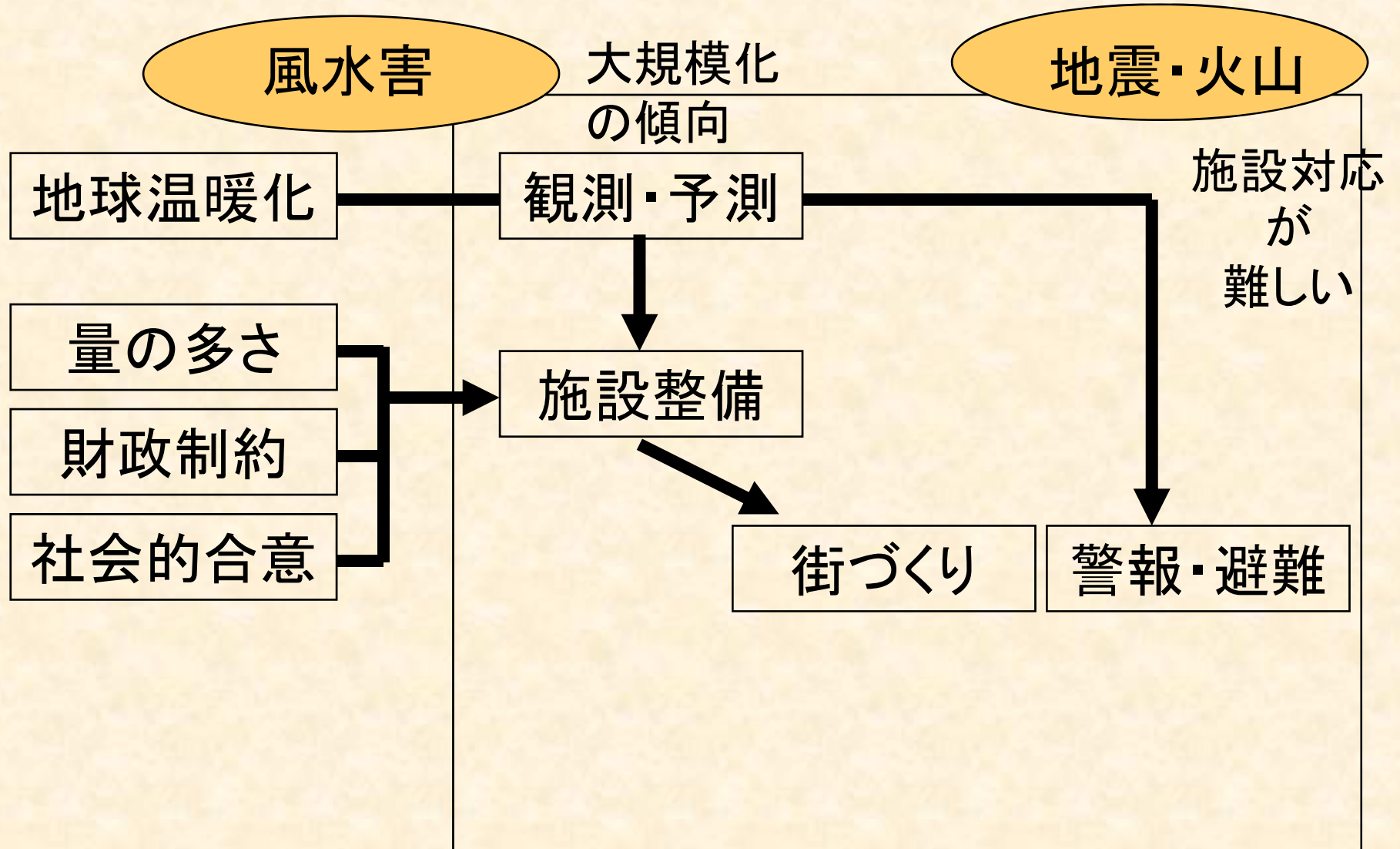


治水に関する災害情報論的コメント

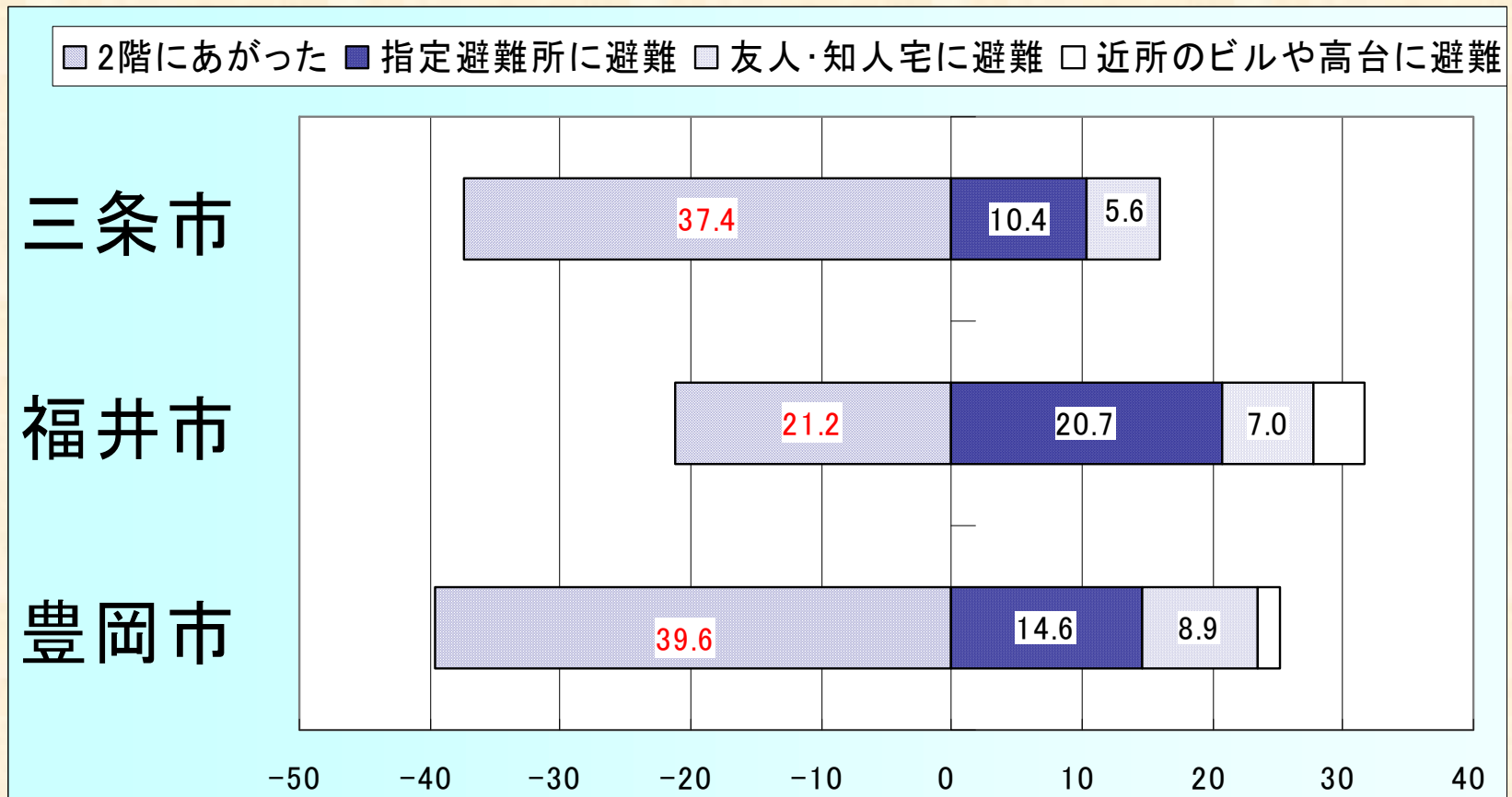
1. 災害と情報
2. 河川氾濫と避難
3. 防災知識の課題
4. 負担が増す生活再建

田中 淳 (Atsushi Tanaka)

1. 災害と情報



2. 河川氾濫と避難



調査概要

(1)三条市： 回収数 320票

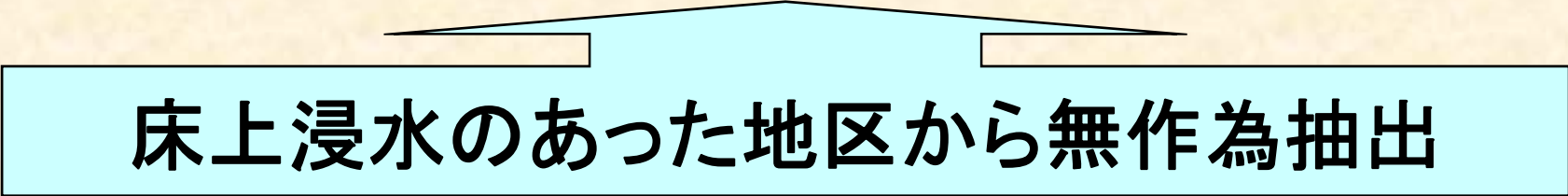
東京大学大学院情報学環廣井研究室

(2)福井市： 回収数 316票

福井県足羽川洪水災害調査対策検討会

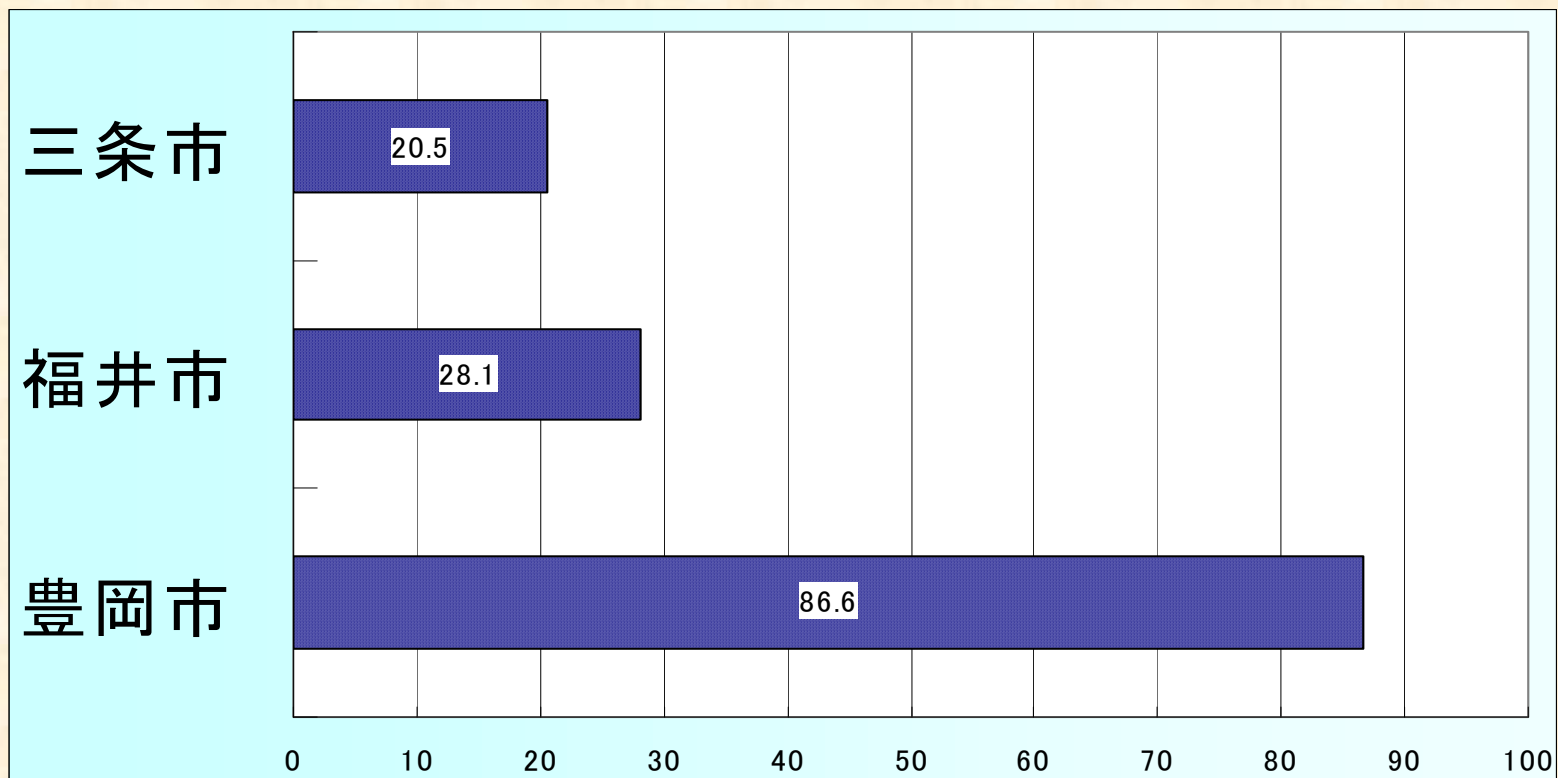
(3)豊岡市： 回収数 329票

NTTdocomoモバイル社会研究所コア研究

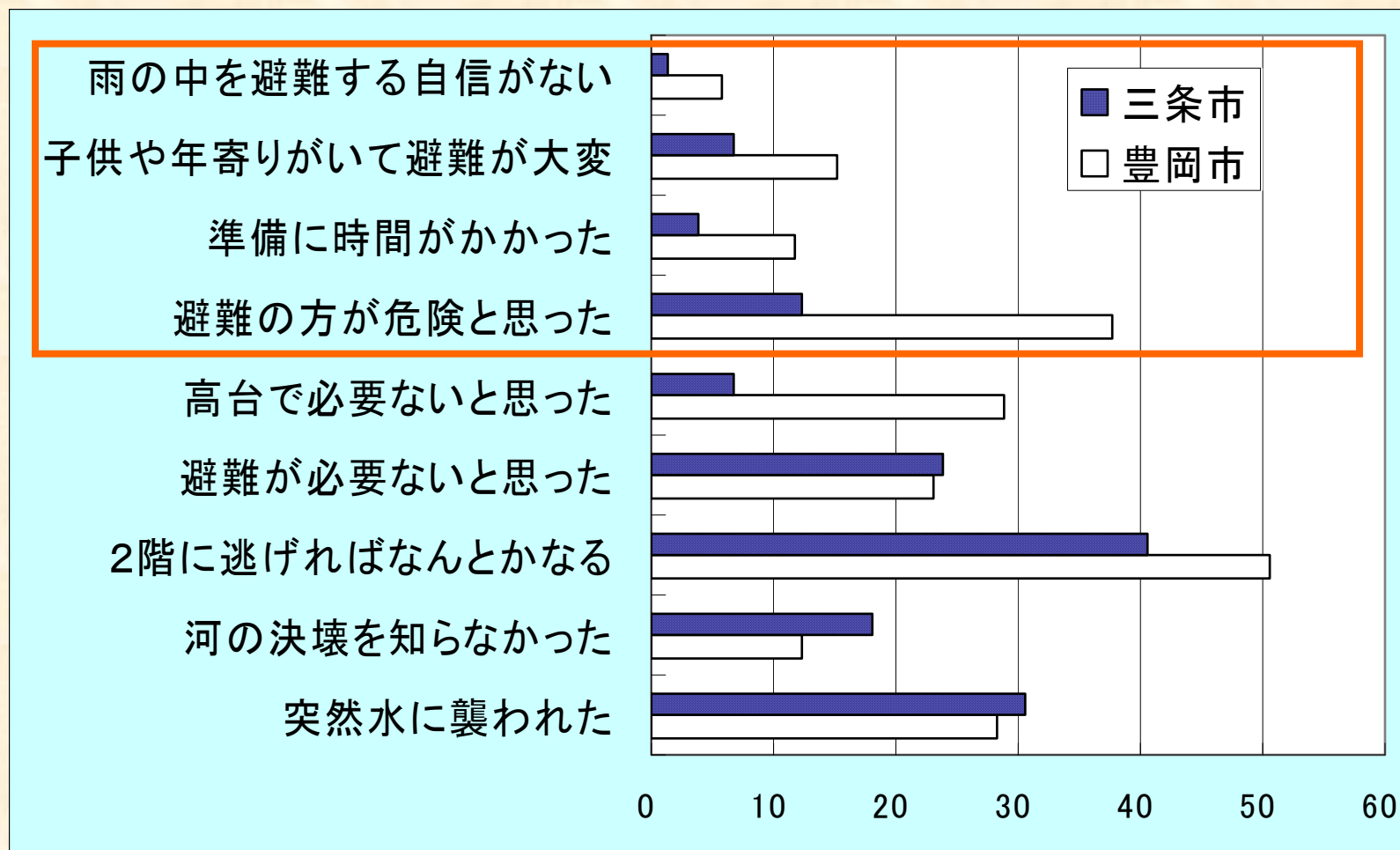


床上浸水のあった地区から無作為抽出

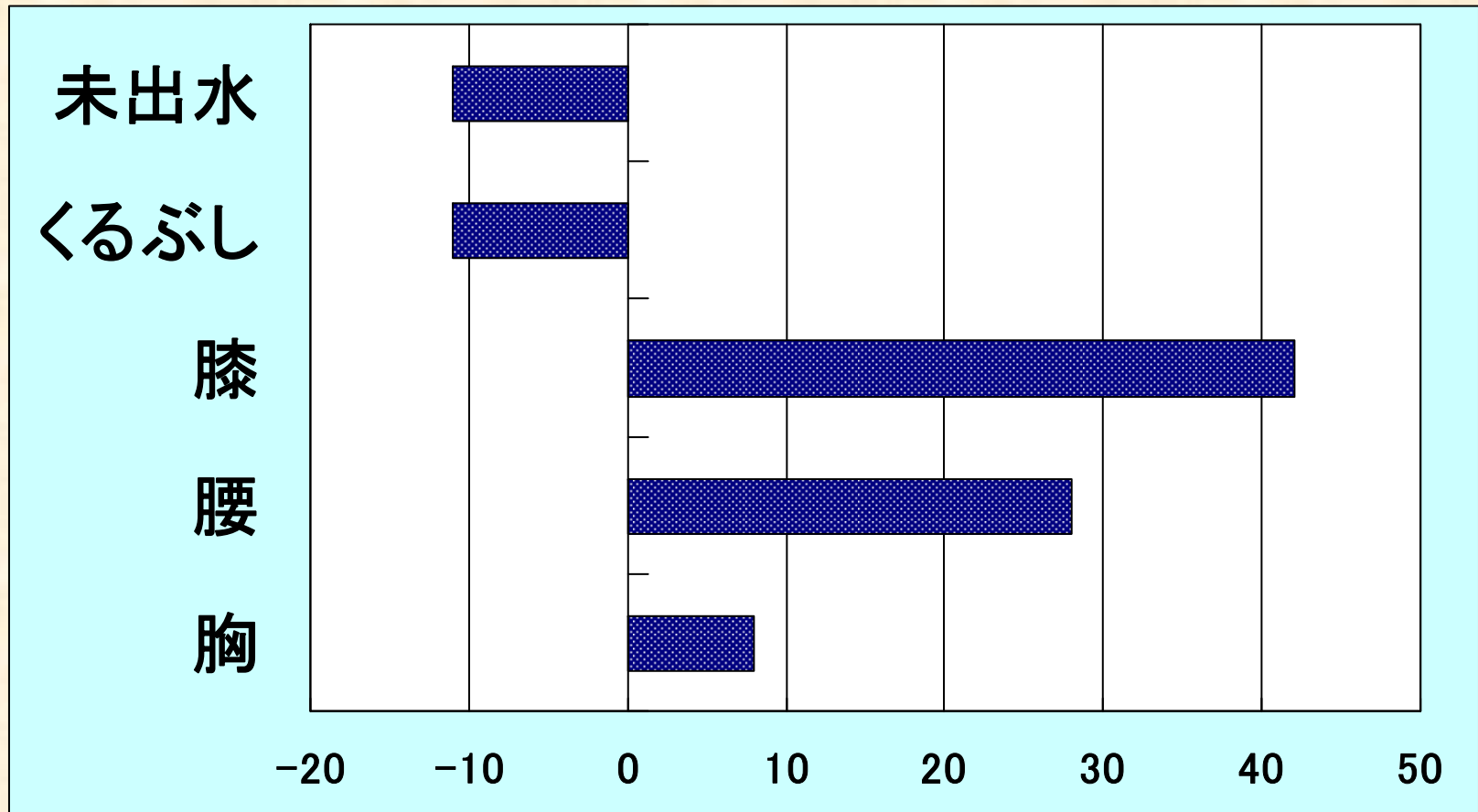
避難勧告事前入手率



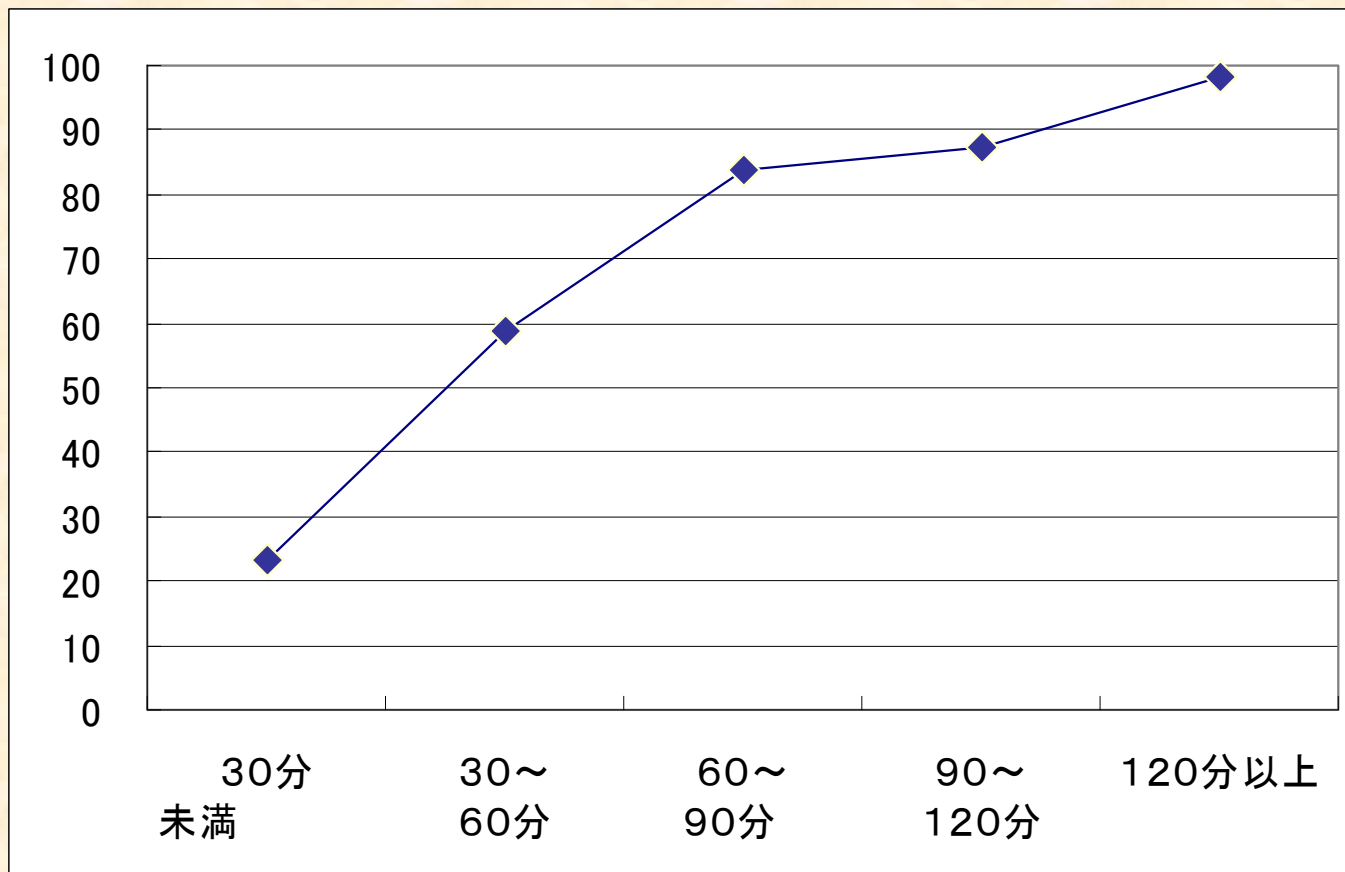
避難しなかった理由



避難時の水位（福井調査）



避難を決心してから実行まで



3. 防災知識の課題



ハードを強くし、ソフトの準備をする



被害拡大を防ぎ、救出・救援する



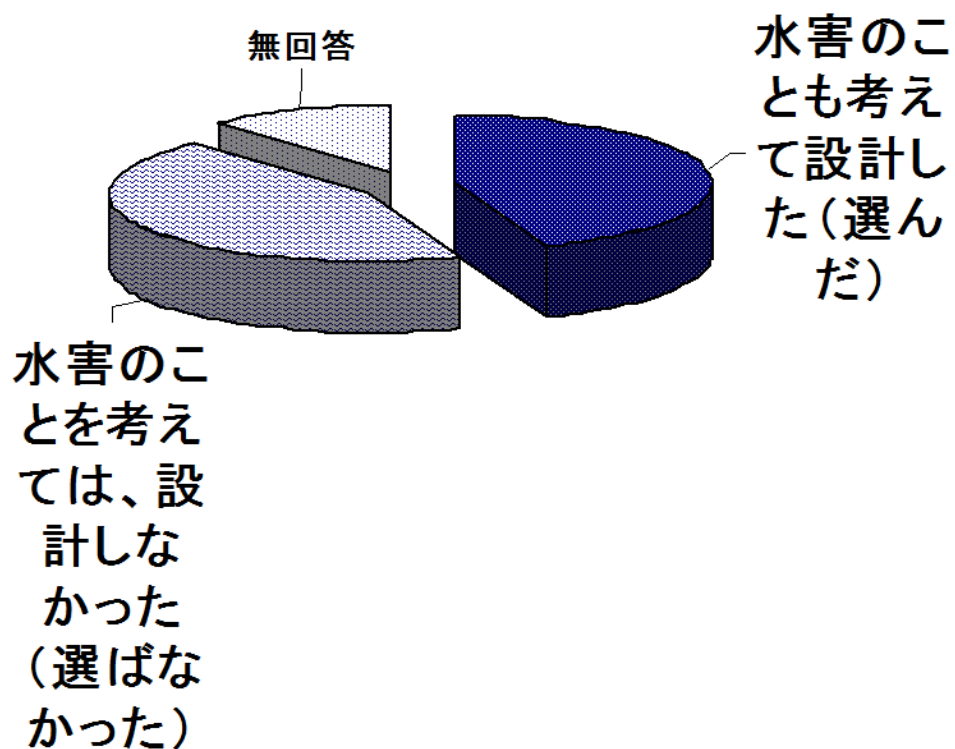
迅速に復興し、改良する

減災サイクル

減災サイクルは成功！？

- a. 一般論としては、成功
- b. しかし、
 - 大規模災害には不十分。
 - 集中豪雨の頻度が高まっている。
 - 地球温暖化による台風の大型化・海面上昇。
- c. むしろ、高頻度中小災害の体験が減少し、
低頻度大規模災害への対応のみが残る。

半地下建築物の4割以上が水害のことは 考えて設計(選択)していない。

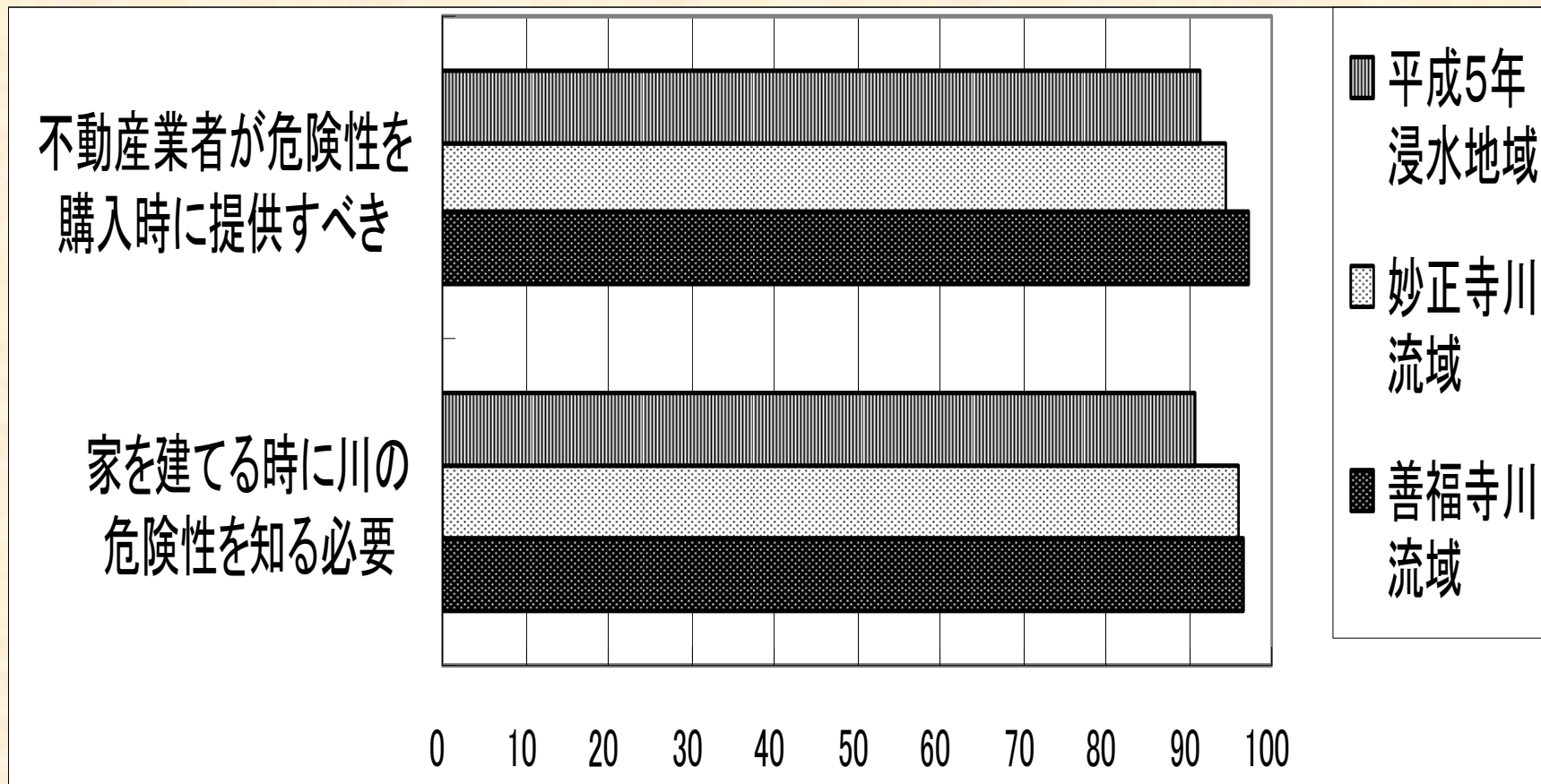


対象調査数34票

2005年神田川流域水害

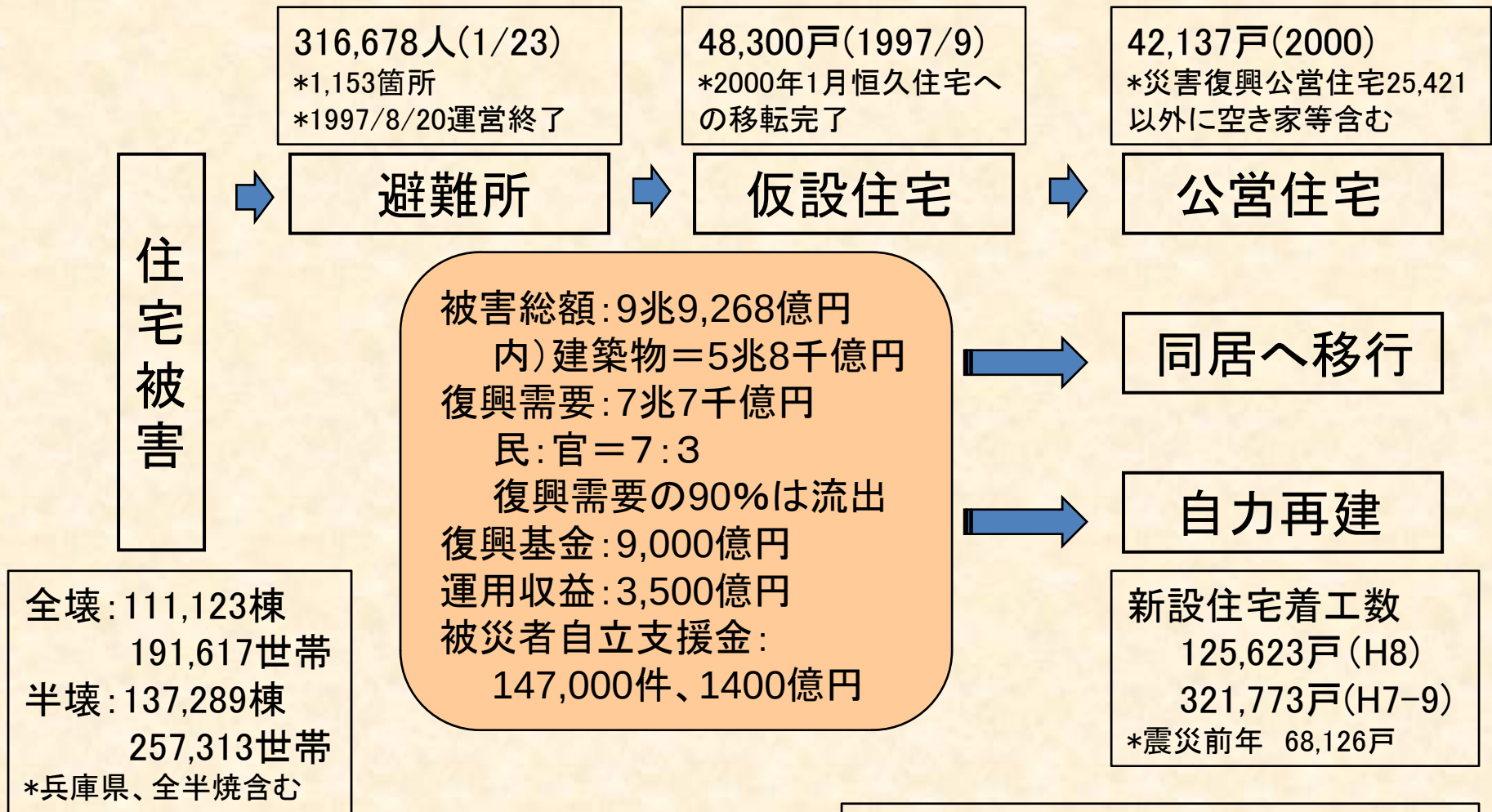
- 9月4日夜、時間雨量112mm(下井草、20時54分～)
- 神田川、善福寺川、妙正寺川が溢水
- 床上浸水2,469棟、床下浸水3,377棟
- 都市部＝舗装部分が多く、河川に集中
＝地下や半地下構造が多い
＝空間的制約から河道整備や
堤防整備は難しい。

タイミングが重要



4. 負担が増す生活再建

— 阪神淡路大震災と復興過程 —



被災者生活再建支援制度

世帯数 支給額(千円)

2000年東海豪雨	18	13,472	
2004年新潟県豪雨災害	317	403,776	
2004年台風23号	1,311	843,055	豊岡市等
2005年台風14号	1,248	1,155,222	垂水市等
2006年梅雨豪雨	252	289,875	岡谷市等
2007年台風11号	98	161,125	久米島等
2008年8月末豪雨	5	9,750	岡崎市等
2009年台風9号	496	659,625	兵庫県等

新たな管理論の要件

情報の伝達にも避難にも時間がかかる



避難時間をかせぎ、リスクが見える管理

防災教育には時間がかかり、高関心に限定。



タイミングとそれを保障する制度

負担が増す生活再建



高齢化社会では行政負担が増加